

# 2022年度 上期決算

## 投資家様向け説明資料

2022年10月26日

オムロン株式会社

# 発表のポイント

## ■ 2022年度 2Q・上期実績

- ・2Q期間（7-9月）は、上海ロックダウンの影響を受けた1Qから大幅な売上増・利益増。V字回復を実現。制御機器事業が大きく牽引。1Qから加速させた供給力強化の取り組みが奏功し、2Q期間として過去最高の業績を達成。
- ・上期実績は、1Qの遅れをほぼ取り戻し、増収に転換。営業利益も、対前年のギャップを大幅に縮小。
- ・セグメント別では、全事業で増収を達成。中でも電子部品事業は、大幅な増収増益となった。

## ■ 2022年度 通期業績見通し

- ・下期の事業環境はグローバル経済の減速を見通しに織り込む。
- ・一方で、供給力強化が進み、高水準の受注残を背景に、売上が拡大。通期見通しを上方修正する。
- ・なお、中間配当は49円に決定し、年間配当予想は期初の計画通り、98円とする。

## ■ 制御機器事業の持続的成長

- ・景気減速の中でも着実に事業機会を掴むため、成長領域へのリソースの集中とソリューションビジネスの強化を加速する。
  - ① エネルギー生産性の向上を実現するオムロンユニークなソリューション
  - ② キリンテクノシステム株式会社への出資と、食品・飲料業界での事業拡大

# 目次

- 1. 2022年度 2Q・上期実績** …… **P.3~9**
- 2. 2022年度 通期見通し** …… **P.10~16**
- 3. 制御機器事業の持続的成長** …… **P.17~25**

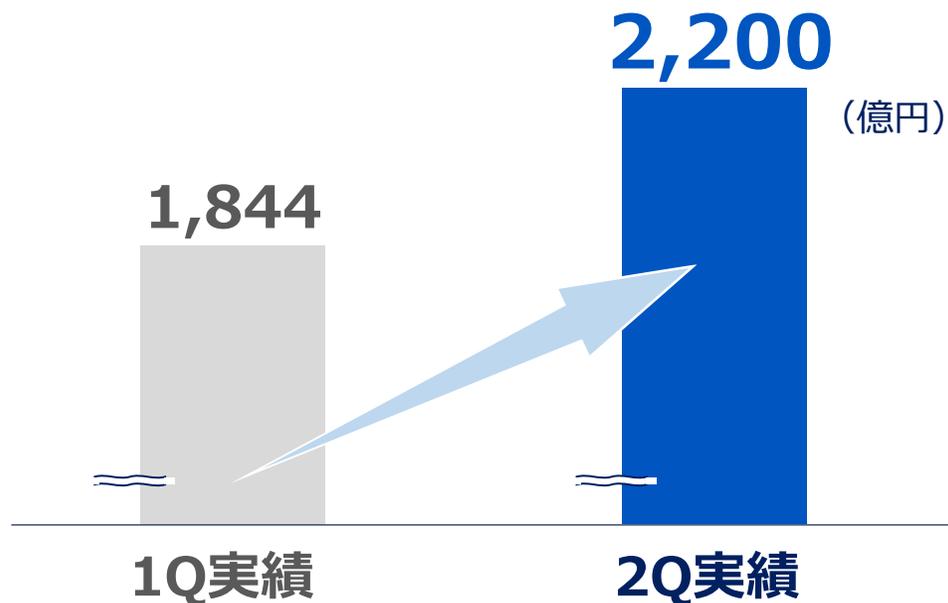
# 1. 2022年度 2Q・上期実績

## 2Q期間（7-9月）のV字回復

2Q期間は、1Q期間から大幅な売上増・利益増を実現。  
1Qの上海ロックダウン影響からV字回復を果たす

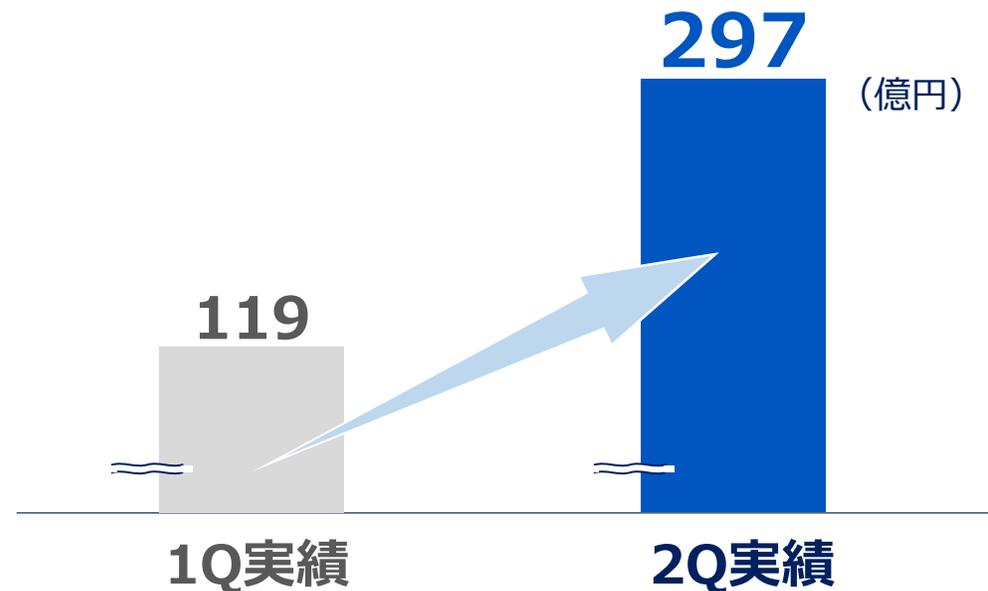
### 売上高

1Q→2Q比 ; +19%



### 営業利益

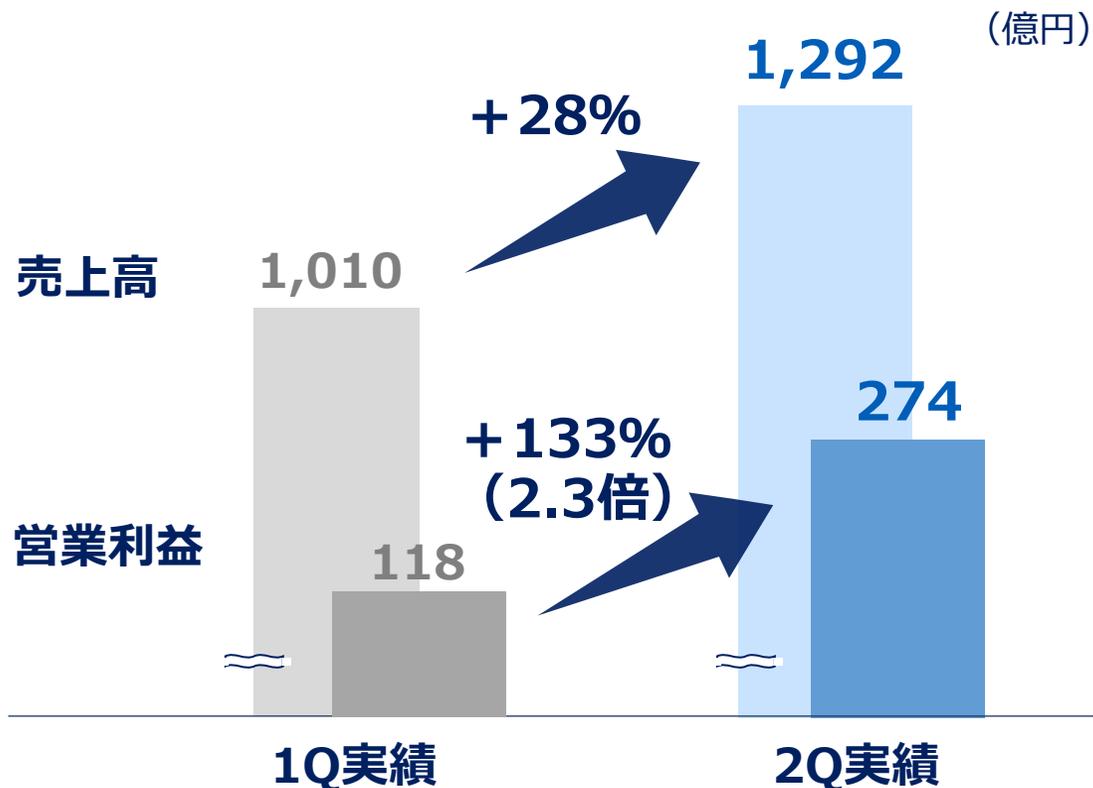
1Q→2Q比 ; +150% (2.5倍)



## 2Q期間：制御機器事業（IAB）実績と取り組みの成果

供給力強化の取り組みが奏功し、上海ロックダウンの影響を早期にリカバリー。  
2Q期間としては過去最高業績を達成し、全社業績を大きく牽引

### 1Q→2Q期間 実績推移



### 供給力向上に向けた取り組み

- EMSの活用拡大

- 並行生産の実行

- 部材調達力の強化

## 2Q期間：全社実績

## 大幅な増収増益を実現

(億円)

	2021年度 2Q実績	2022年度 2Q実績	前年 同期比
売上高	1,812	<b>2,200</b>	<b>+21.5%</b>
売上総利益 (売上総利益率)	832 (45.9%)	<b>1,010</b> <b>(45.9%)</b>	+21.3% (△0.1P)
営業利益 (営業利益率)	199 (11.0%)	<b>297</b> <b>(13.5%)</b>	<b>+49.2%</b> (+2.5P)
当期純利益	124	<b>199</b>	+61.1%
米ドル 平均レート (円)	110.0	136.6	+26.7
ユーロ 平均レート (円)	130.5	139.7	+9.2
人民元 平均レート (円)	17.0	20.1	+3.1

## 上期：全社実績

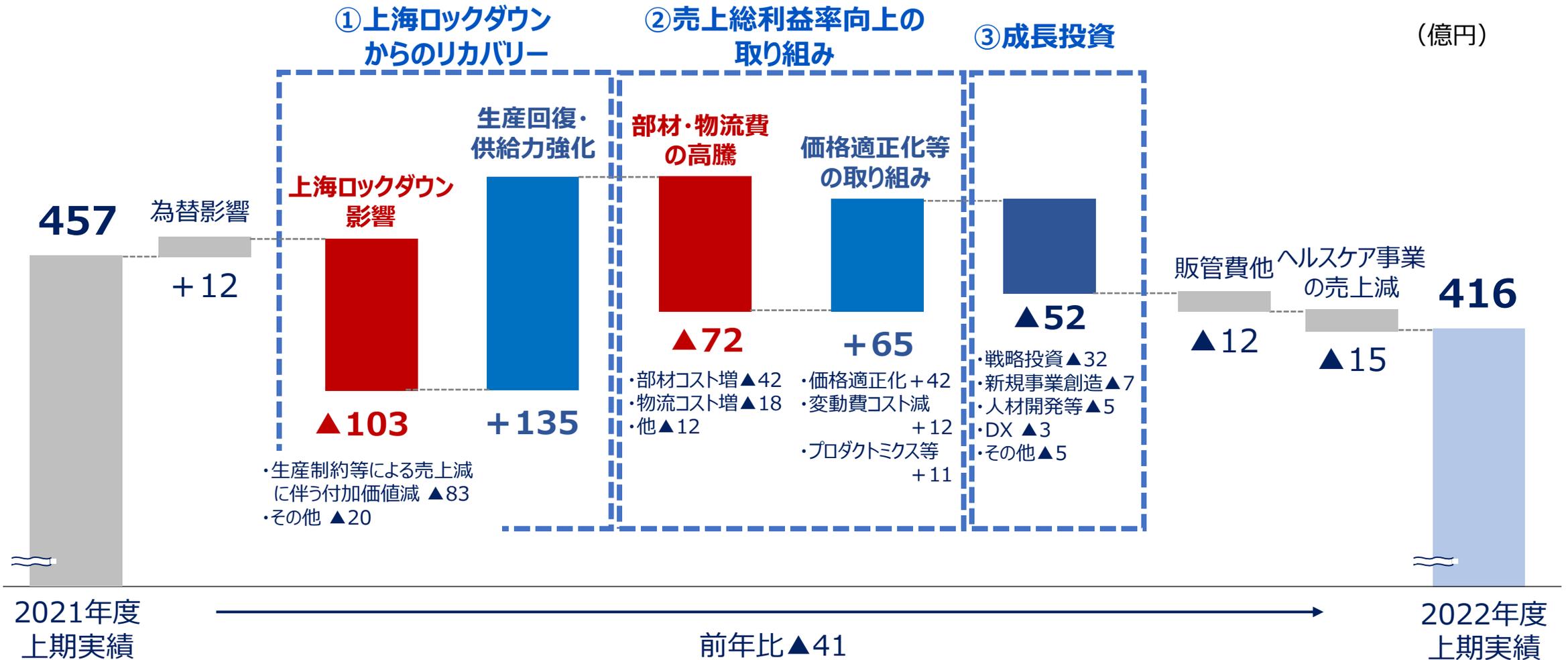
## 2Q期間のV字回復により、上期実績は増収へ転換

(億円)

	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	前年 同期比
売上高	3,694	<b>4,044</b>	<b>+9.5%</b>
売上総利益 (売上総利益率)	1,706 (46.2%)	<b>1,814</b> <b>(44.9%)</b>	+6.4% (△1.3P)
営業利益 (営業利益率)	457 (12.4%)	<b>416</b> <b>(10.3%)</b>	<b>△9.0%</b> (△2.1P)
当期純利益	325	<b>279</b>	△14.3%
米ドル 平均レート (円)	109.9	131.6	+21.7
ユーロ 平均レート (円)	131.1	138.2	+7.1
人民元 平均レート (円)	17.0	19.7	+2.7

# 上期：営業利益増減（前年との比較）

上海ロックダウンからのリカバリーを実現。  
部材・物流費高騰の影響を価格適正化の効果により最小化。将来に向けた成長投資も実行



## 上期：セグメント別実績

全事業で増収を果たす。特に電子部品事業は大幅な増収増益を達成

(億円)

	売上高			営業利益		
	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	前年 同期比	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	前年 同期比
制御機器事業 (IAB)	2,065	<b>2,301</b>	+11.4%	401 (19.4%)	<b>391</b> (17.0%)	△2.4% (△2.4P)
ヘルスケア事業 (HCB)	677	<b>681</b>	+0.6%	121 (17.9%)	<b>83</b> (12.2%)	△31.5% (△5.7P)
社会システム事業 (SSB)	350	<b>366</b>	+4.5%	△14 -	△14 -	- -
電子部品事業 (DMB)	585	<b>686</b>	+17.3%	48 (8.2%)	<b>81</b> (11.7%)	+68.0% (+3.5P)
本社他 (消去調整含む)	16	<b>10</b>	△40.6%	△98	△125	-
合計	3,694	<b>4,044</b>	+9.5%	457 (12.4%)	<b>416</b> (10.3%)	△9.0% (△2.1P)

\*制御機器事業の一部商品を電子部品事業に組み替えて表示しています。

## 2. 2022年度 通期見通し

## セグメント別 注力事業の環境認識

## グローバル経済が減速する中でも、各事業領域で新たな事業機会が表出

<b>制御機器事業 (IAB)</b>	<p><b>デジタル</b>：半導体は用途別に需要の濃淡はあるが、総じて横ばい。再生可能エネルギー(PV)は高位継続。</p> <p><b>環境モビリティ</b>：政府による補助金や脱炭素トレンドによりEV関連投資堅調。二次電池投資は拡大継続。</p> <p><b>食品・日用品</b>：インフレによる消費需要減退を受け、投資は縮小傾向。脱プラ関連投資は堅調。</p> <p><b>医療</b>：ワクチンなどのコロナ特需が一服。高齢化による医薬品需要の高まりを受けた設備投資は継続。</p> <p><b>物流</b>：倉庫新設に伴う設備投資は一時的に停滞。倉庫労働者不足による自動化投資は拡大。</p>
<b>ヘルスケア事業 (HCB)</b>	<p><b>循環器</b>：中国ゼロコロナ政策とインフレによる個人消費への影響から、<b>血圧計需要は停滞</b>。</p> <p><b>呼吸器</b>：行動制限の緩和による通院増により、欧州やアジア、インドを中心に需要は回復傾向。</p> <p><b>遠隔診療</b>：欧米を中心に需要は拡大傾向が継続。</p>
<b>社会システム事業 (SSB)</b>	<p><b>エネルギー</b>：電気料金の高騰や省エネ促進に向けた補助金の継続により<b>需要堅調</b>。</p> <p><b>マネジメント・サービス</b>：人手不足により、アナログ点検からIT活用による点検への見直しが堅調に推移。 * (鉄道業界：輸送人員の増加を受けて、鉄道業界各社の設備投資が拡大。)</p>
<b>電子部品事業 (DMB)</b>	<p><b>DC(直流)機器</b>：巣ごもり特需の一服により<b>一部業界で需要が減速</b>。EV向けは引き続き堅調。</p> <p><b>高周波機器</b>：スマホ・PC向け半導体は調整局面の一方で、半導体検査装置などの需要は堅調継続。</p>

\*鉄道業界の位置づけは注力事業ではないものの、事業環境に大きな変化があるため、本決算では追記する。

## 2022年度 通期：全社見通し

## 通期見通しを上方修正する

(億円)

	2022年度 期初計画	2022年度 今回見通し	期初計画比	2021年度 実績	前年度比
売上高	8,500	<b>8,800</b>	+3.5%	7,629	+15.3%
売上総利益	3,875	<b>3,965</b>	+2.3%	3,468	+14.3%
(売上総利益率)	(45.6%)	<b>(45.1%)</b>	(△0.5P)	(45.5%)	(△0.4P)
営業利益	930	<b>950</b>	+2.2%	893	+6.4%
(営業利益率)	(10.9%)	<b>(10.8%)</b>	(△0.1P)	(11.7%)	(△0.9P)
当期純利益	630	<b>645</b>	+2.4%	614	+5.0%
ROE	10%超	<b>10%程度</b>	-	9.7%	+0.3P程度
ROIC	10%超	<b>10%程度</b>	-	9.6%	+0.4P程度
EPS (円)	316	<b>324</b>	+7.6	306	+18.2
米ドル 平均レート (円)	121.0	135.8	+14.8	112.1	+23.7
ユーロ 平均レート (円)	133.0	139.1	+6.1	130.5	+8.6
人民元 平均レート (円)	19.0	19.9	+0.9	17.4	+2.4

\*2022年度今回見通しにおける下期の為替レートは 米ドル 140.0円、ユーロ 140.0円、人民元 20.0円

## 2022年度 通期：セグメント別見通し

## 制御機器事業、電子部品事業は上方修正。ヘルスケア事業は下方修正

(億円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 今回見通し	期初計画差	前年差	2022年度 今回見通し	期初計画差	前年差
制御機器事業 (IAB)	5,030	+200	+849	930 (18.5%)	+30 (△0.1P)	+167 (+0.3P)
ヘルスケア事業 (HCB)	1,430	△110	+101	150 (10.5%)	△50 (△2.5P)	△35 (△3.5P)
社会システム事業 (SSB)	960	+40	+83	50 (5.2%)	△15 (△1.9P)	△15 (△2.2P)
電子部品事業 (DMB)	1,350	+70	+140	120 (8.9%)	+15 (+0.7P)	+19 (+0.6P)
本社他 (消去調整含む)	30	-	△3	△300	-	△79
合計	8,800	+300 ※	+1,171	950 (10.8%)	+20 ※ (△0.1P)	+57 (△0.9P)

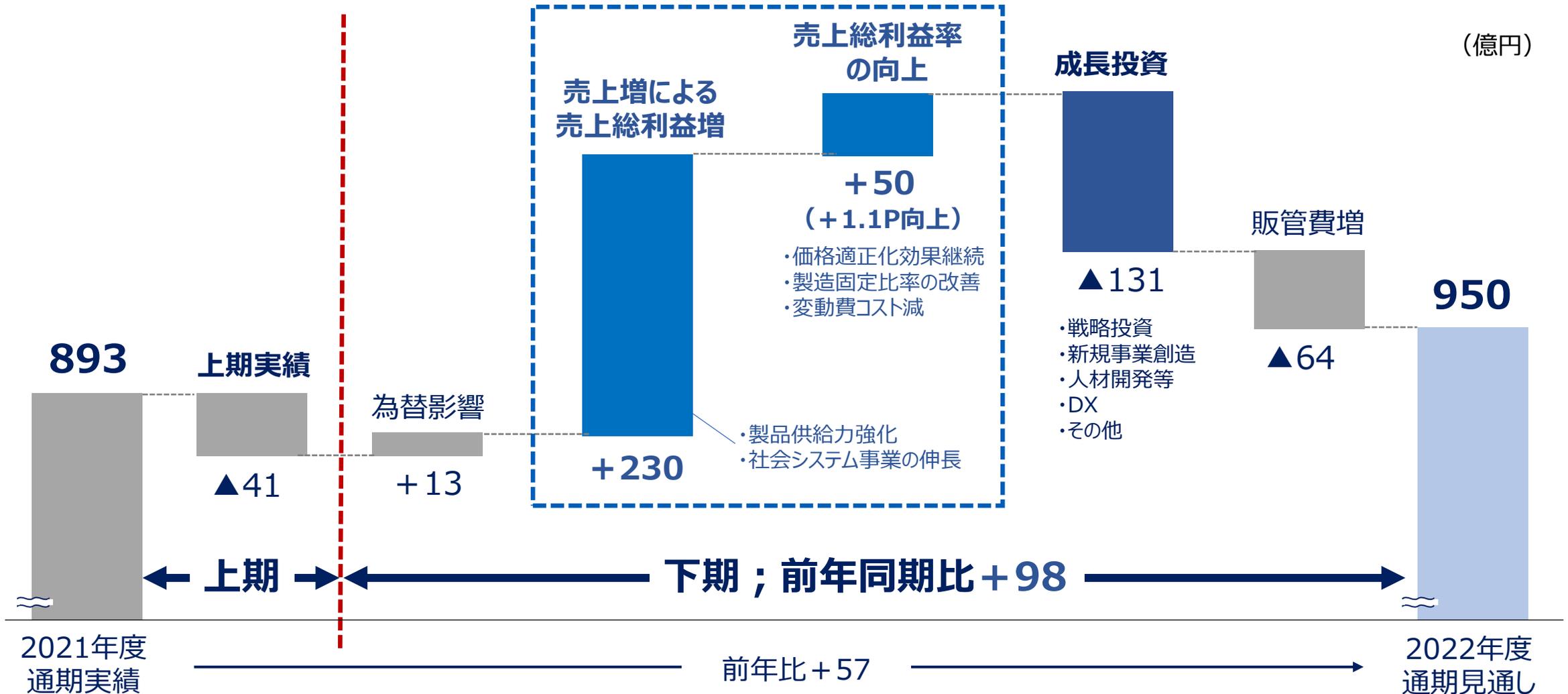
※期初計画における業績変動リスク（売上高△100/営業利益△40）の影響は、除外しております。

\*前年差については、制御機器事業の一部商品を電子部品事業に組替えた後の数値で比較しています。

\*今回見通しの期初計画/前年比率については、参考資料の29ページをご参照下さい。

# 2022年度 通期：営業利益増減（前年との比較）

供給力強化による売上拡大と売上総利益率の向上により、下期は大幅増益を見通す



## 制御機器事業事業（IAB）下期業績の確からしさ

高水準の受注残が下支え。供給力強化の取り組みは着実に進捗

下期売上高 2,729億円（前年比+29%）

1

### 受注残 ・ 需要動向

#### 受注残

今期業績を支える受注残が存在

#### 成長領域における需要動向

再生エネ・EV・二次電池などの需要堅調

2

### 供給力

#### 生産能力

EMS活用・並行生産が計画通りに進捗

#### 部材調達

半導体等一部の部材を除き緩やかな改善

## 株主還元について

中間配当は49円に決定。年間配当予想は期初計画通りの98円とする。  
7月26日公表の自己株式取得は、9月末時点で55億円を取得

配当	中間配当 (決定) <b>49円</b> 〔 21年度比 3円増配 〕	年間配当 (予想) <b>98円</b> 〔 21年度比 6円増配 〕
自己株式 取得	9月末時点の 取得 <b>55億円</b>	〔 7月26日公表の取得枠 金額 : 200億円 (上限) 株式数 : 330万株 (上限) 取得期間 : 2022年7月27日~2023年3月31日 〕

## 3. 制御機器事業の持続的成長

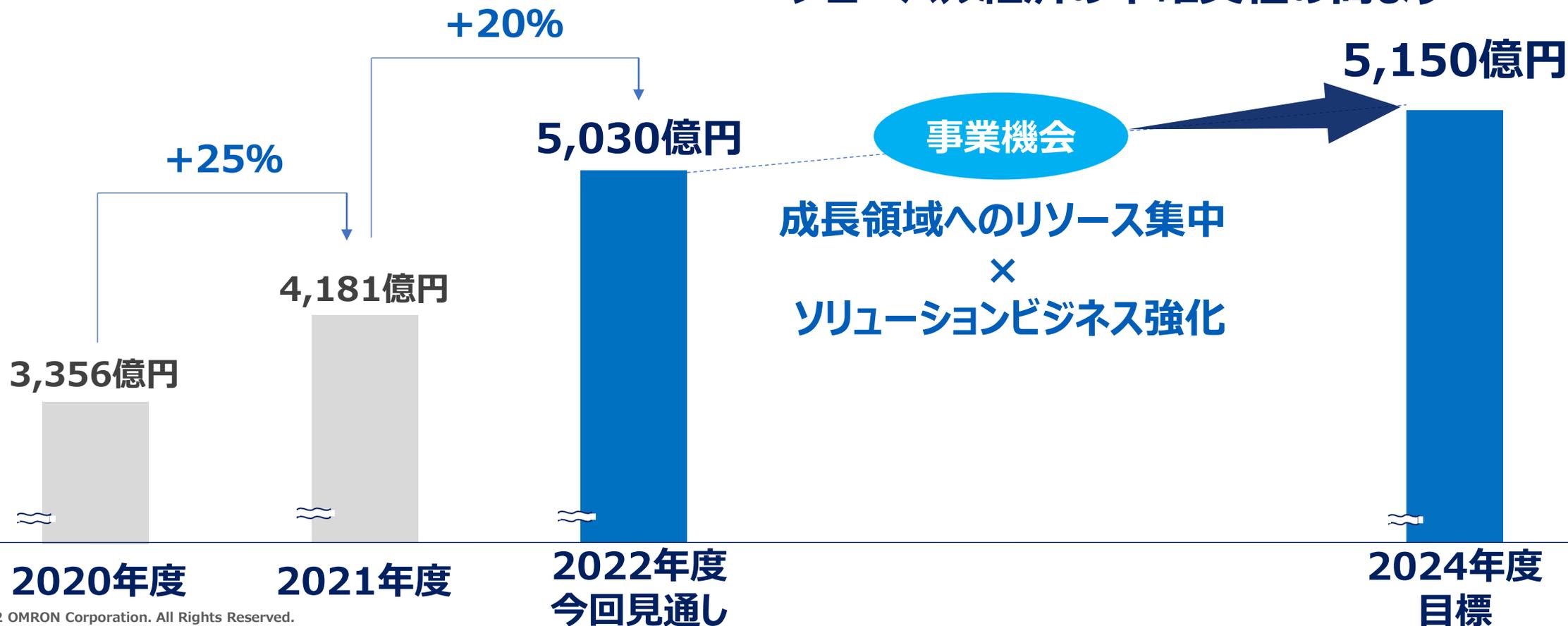
# 制御機器事業（IAB）の中計目標進捗と今後の展望

中計目標に向け大幅に進捗。景気減速の中でも、事業機会を掴み成長力を高めていく

～2022年度

2023年度～

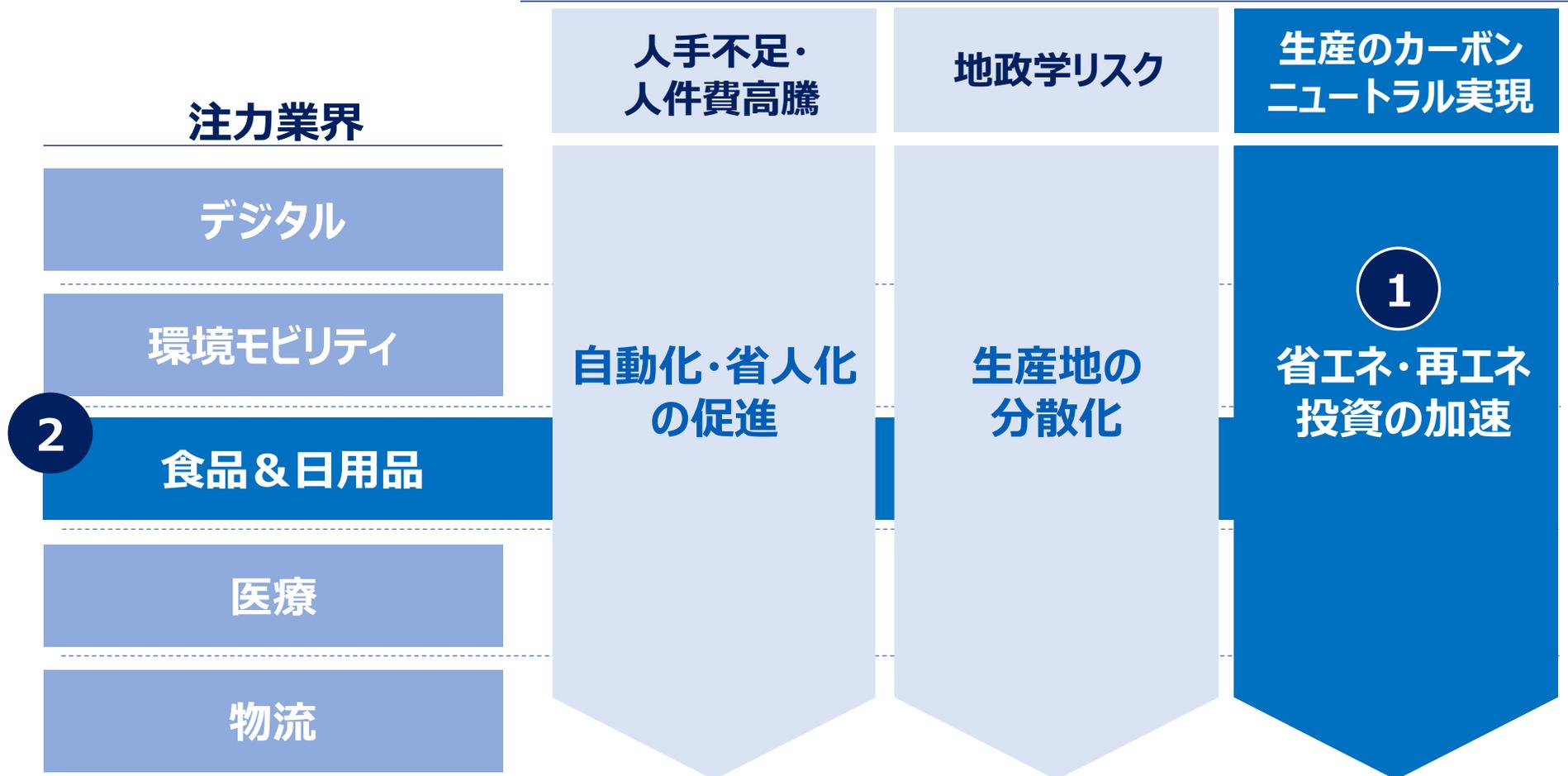
グローバル経済の不確実性の高まり



# 制御機器事業（IAB）が捉える事業機会

マクロ環境の潮流変化は、経済が減速する中でも事業機会の拡大を促進

## マクロ環境の潮流変化と制御機器事業の事業機会



# 制御機器事業（IAB）エネルギー生産性の向上

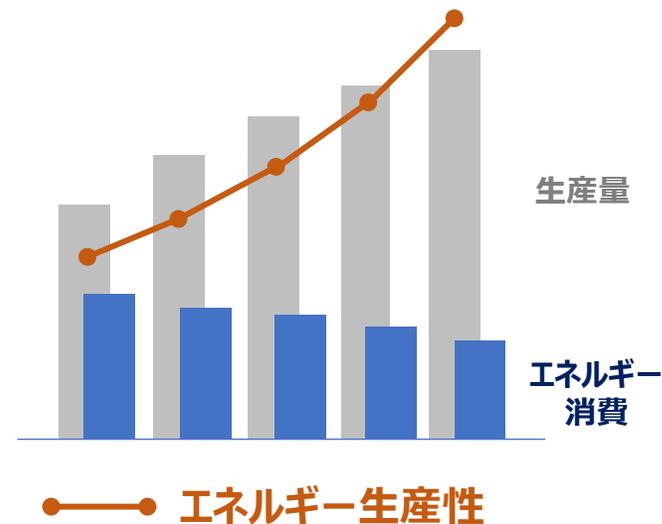
製造業におけるカーボンニュートラルの高まるニーズに対し、  
オムロンユニークなソリューションビジネスを拡大させていく

## i-Automation!

## 製造現場におけるエネルギー生産性ソリューション



=

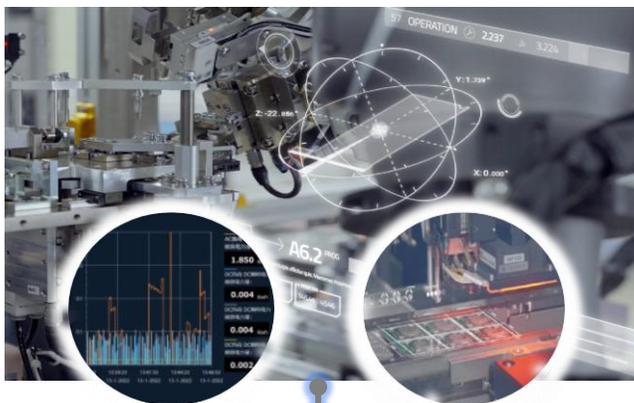


# 制御機器事業（IAB）エネルギー生産性向上のソリューション

## 多様化する生産現場データの活用と統合制御により、生産性・品質とエネルギー効率の向上を両立

### 1 生産性・品質向上

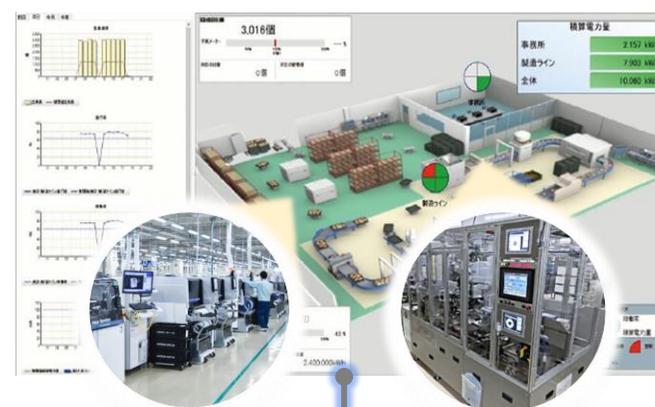
250を超える革新アプリケーションによる  
現場データ活用と高度な自動化



生産性・品質データ

### 2 エネルギー効率向上

10年以上に渡り蓄積した技術・ナレッジによる  
エネルギー情報の見える化と最適電力制御



エネルギーデータ

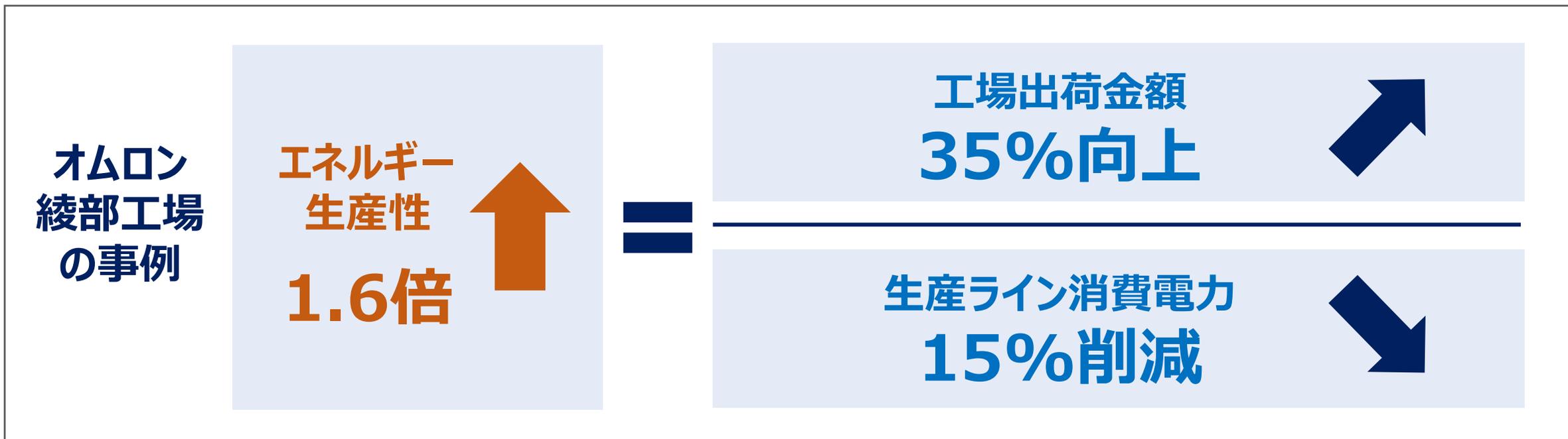
### 3 統合制御



## 制御機器事業（IAB）自社工場での実績とソリューションビジネスの拡大

自社工場での実践により、エネルギー生産性を大幅に向上。

i-BELTサービスとして、生産拠点のカーボンニュートラルを目指すグローバル顧客に提供し、ソリューションビジネスを拡大していく



(2010年~2021年実績)

## キリンテクノシステム株式会社への出資について

飲料業界向け検査機の国内大手メーカー、  
キリンテクノシステム社に対する出資について株式譲渡契約を締結

### キリンテクノシステム株式会社



#### 事業概要

飲料業界向け検査機の製造・販売  
同業界での検査機国内大手



## キリンテクノシステム株式会社への出資について



# 食品・飲料業界の事業拡大

## 食品・飲料業界の生産革新と海外市場での事業拡大

### OMRON

**狙い**

検査機データを活用した  
新たな *i*-Automation!の創出と  
食品・飲料業界の事業拡大

**強み**

ILOR+Sの高度な制御技術  
(アプリケーション/エンジニア力)

グローバル販路  
(40カ国150の販売拠点)  
(オートメーションセンタ37拠点)



よろこびがつながる世界へ

### KIRIN

**狙い**

キリングループ全体の生産高度化

**強み**

高度な検査技術  
(光学技術/搬送技術)

ソリューション力  
(現場ニーズを熟知した装置化力)

**OMRON**

# 參考資料

# キリンテクノシステム株式会社の概要

## 飲料業界向け検査機の国内大手メーカー

### 《会社概要》

会社名： キリンテクノシステム株式会社

代表取締役社長： 細川浩延

設立： 1990年

(キリンビール(株)エンジニアリング部：1976～1989年)

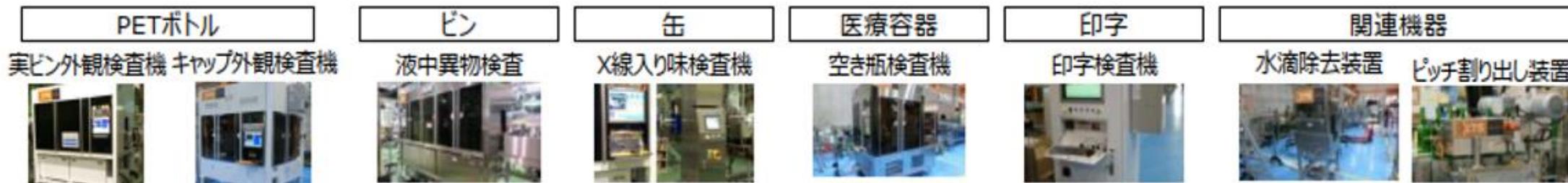
従業員数： 160名 (2022年4月1日現在)

株主： キリンビール株式会社の100%子会社

本社： 神奈川県川崎市川崎区大川町10番10号



### 《主な製品》 飲料業界向け検査装置



# 2022年度 通期：セグメント別見通し（比率）

(億円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 今回見通し	期初計画比	前年比	2022年度 今回見通し	期初計画比	前年比
制御機器事業 (IAB)	5,030	+4.1%	+20.3%	930 (18.5%)	+3.3% (△0.1P)	+22.0% (+0.3P)
ヘルスケア事業 (HCB)	1,430	△7.1%	+7.6%	150 (10.5%)	△25.0% (△2.5P)	△19.1% (△3.5P)
社会システム事業 (SSB)	960	+4.3%	+9.5%	50 (5.2%)	△23.1% (△1.9P)	△23.1% (△2.2P)
電子部品事業 (DMB)	1,350	+5.5%	+11.6%	120 (8.9%)	+14.3% (+0.7P)	+19.0% (+0.6P)
本社他 (消去調整含む)	30	-	△9.1%	△300	-	-
業績変動リスク	-	-	-	-	-	-
合計	8,800	+3.5%	+15.3%	950 (10.8%)	+2.2% (△0.1P)	+6.4% (△0.9P)

\*前年比については、制御機器事業の一部商品を電子部品事業に組替えた後の数値で比較しています。

# 連結貸借対照表

(億円)

	2022年3月末	2022年9月末	前年度末差
流動資産	4,829	4,906	+77
(現金及び現金同等物)	(1,555)	(1,239)	(△316)
(たな卸資産)	(1,419)	(1,832)	(+412)
有形固定資産	1,221	1,241	+20
投資その他の資産	3,256	3,548	+292
資産の部合計	9,306	9,695	+389
流動負債	2,117	2,017	△99
固定負債	510	467	△43
負債の部合計	2,627	2,484	△142
株主資本	6,652	7,186	+534
非支配持分	27	24	△3
純資産の部合計	6,680	7,211	+531
負債及び純資産合計	9,306	9,695	+389
株主資本比率	71.5%	74.1%	+2.6P

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	2021年度 上期実績	2022年度 上期実績	前年同期差
営業活動によるキャッシュ・フロー (営業CF)	393	191	△202
投資活動によるキャッシュ・フロー (投資CF)	△124	△277	△153
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	268	△86	△355
財務活動によるキャッシュ・フロー (財務CF)	△104	△346	△243
期末の現金残高	2,740	1,239	△1,501
設備投資	118	173	+55
減価償却費	115	130	+15

# 為替感応度（期初時点の想定）と為替前提

1円変動（人民元は0.1円）による影響額（通期）

	為替感応度		為替前提
	売上高	営業利益	2022年度 下期為替前提
米ドル	約18億円	約1億円	140円
ユーロ	約9億円	約4億円	140円
人民元	約10億円	約3億円	20.0円

※ 新興国通貨などが、主要通貨に対して期初想定通りに連動しなかった場合、感応度に影響を与えます。

# 主要ESGインデックスへの組み入れ (2022年10月現在)

## <オムロンが選定されているESGインデックス >

- ✓ DJSI – World **5年連続選定**
- ✓ FTSE4Good Index Series **7年連続選定**
- ✓ MSCI ESG Leaders Indexes **8年連続選定**
- ✓ MSCI SRI Indexes **6年連続選定**
- ✓ STOXX Global ESG Leaders Indices **6年連続選定**
- ✓ FTSE Blossom Japan Index **6年連続選定**
- ✓ FTSE Blossom Japan Sector Relative Index **初選定**
- ✓ MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数 **6年連続選定**
- ✓ MSCI 日本株 女性活躍指数 **6年連続選定**
- ✓ S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数 **5年連続選定**

\*オムロンでは、CDP気候変動・水に関する調査を含むESG評価機関による調査など、多くの外部からの調査に協力し、情報を開示しています。  
2021年度評価：気候変動「A-」、水セキュリティ「A-」

Member of  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**  
Powered by the S&P Global CSA



FTSE4Good



FTSE Blossom  
Japan



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

2022 CONSTITUENT MSCI JAPAN  
ESG SELECT LEADERS INDEX

2022 CONSTITUENT MSCI JAPAN  
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)



THE INCLUSION OF OMRON CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF OMRON CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

# 社外からの評価 (2022年10月現在)

## <ESG関連表彰・銘柄選定>

### S&Pグローバル社選定

- ✓ S&P サステナビリティアワード シルバークラス

### EcoVadis社選定

- ✓ サステナビリティ調査 ゴールド

### 一般社団法人 日本取締役協会 主催

- ✓ コーポレート・ガバナンス・オブ・ザ・イヤー2018 経済産業大臣賞 **2018年度受賞**

### 環境省 主催

- ✓ 平成30年度 地球温暖化防止活動大臣表彰 「対策活動実践・普及部門」を受賞 **2018年度受賞**

### 日本経済新聞社 主催

- ✓ 日経SDGs経営大賞 「SDGs戦略・経済価値賞」を受賞 **2019年12月受賞**

### 経済産業省・東京証券取引所 選定

- ✓ 企業価値向上表彰 大賞 **2014年度受賞**
- ✓ なでしこ銘柄 **2017年度より5年連続選定**
- ✓ 健康経営銘柄 **2018年度より4年連続選定**
- ✓ 健康経営優良法人～ホワイト500～ **2016年度より6年連続選定**

### 日本経済新聞社 選定

- ✓ 日経225 **2019年3月 初選定**

Sustainability Award  
Silver Class 2022

S&P Global



Corporate Governance  
of The Year

平成30年度  
地球温暖化防止活動  
環境大臣表彰



健康経営銘柄 2022

Health and Productivity



2022  
健康経営優良法人  
Health and productivity  
ホワイト500

# ROIC逆ツリー展開 (2.0)

## 事業戦略



## KPI

注力業界/注力事業売上  
 サービス/リカーリング売上  
 新商品売上  
 コトビジネス契約顧客数  
 革新アプリ数  
 標準部品搭載率  
 CD率/失敗コスト率

一人当り生産台数  
 自動化率 (省人数)

人的創造性  
 間接部門人員数  
 ITコスト/ファシリティコスト

生産LT  
 不動在庫額  
 滞留債権額

設備投資額  
 M&A投資によるシナジー効果

## 改善ドライバー

売上総利益率

付加価値率

製造固定費率

販管費率  
 R&D率

運転資金回転率

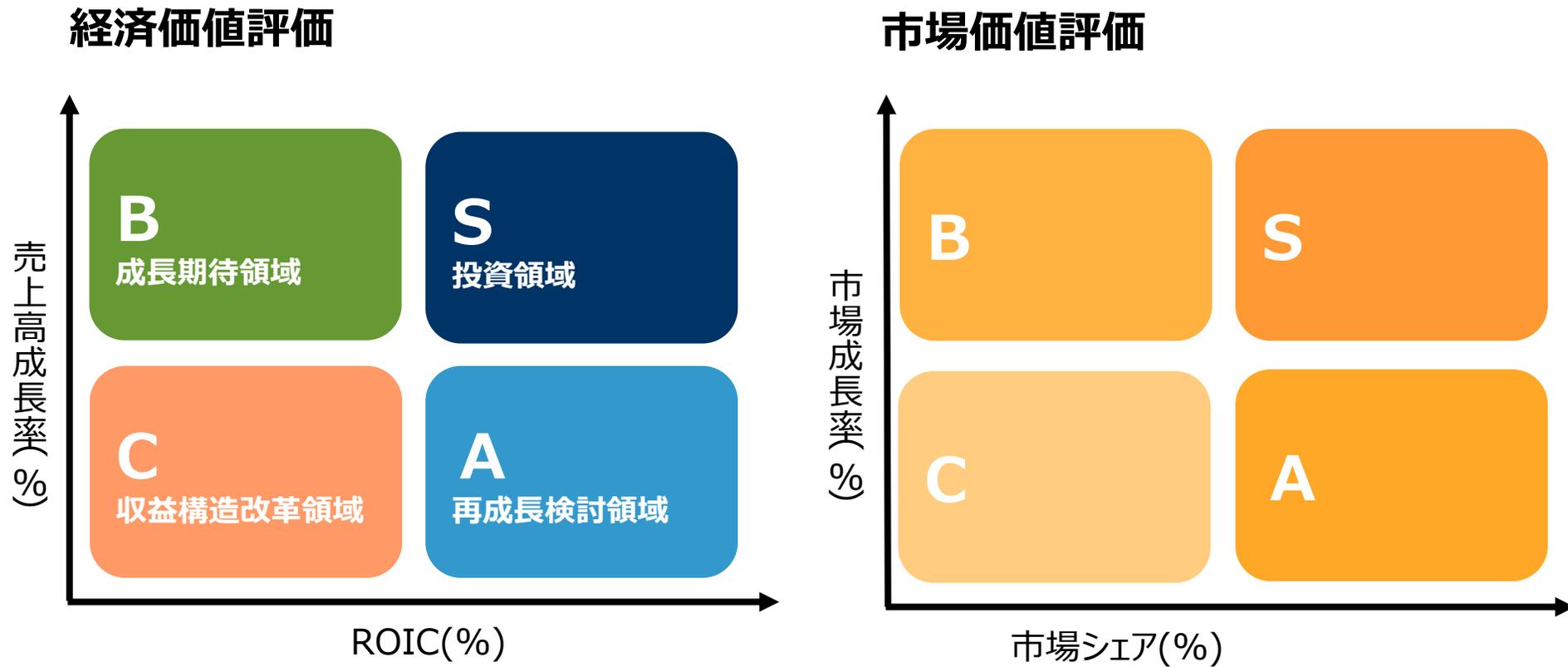
固定資産回転率

ROS

投下  
 資本  
 回転率

ROIC

# 事業ポートフォリオマネジメント



# ROIC計算式

<連結貸借対照表>

科目	年 月 末
資産の部	
流動資産	
…	
…	
有形固定資産	
…	
投資その他の資産	
…	
負債の部	
流動負債	
短期債務	
…	
…	
…	
純資産の部	
株主資本	
…	
…	
…	
純資産の部合計	
負債及び純資産合計	

$$\text{ROIC} = \frac{\text{当社株主に帰属する当期純利益}}{\text{投下資本}}$$

$$\text{投下資本} = \text{純資産} + \text{有利子負債}$$

※投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績または見通しを平均して算出。

**2021～2024年度の想定資本コスト：5.5%**

## <注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

## < I R に関するお問い合わせ >

**オムロン株式会社**

**グローバルインベスター & ブランドコミュニケーション本部 IR部**

E-mail : [omron-ir@omron.com](mailto:omron-ir@omron.com)

Webサイト : [www.omron.com/jp/ja/](http://www.omron.com/jp/ja/)